

## 令和5年度調査の成果

### 【トレンチ3・4】

前方部墳端の把握を主目的に調査しました。残念ながら後世の改変により墳丘の墳端付近は削平されており、墳端を確認できませんでした。一方、前方部は地山と呼ばれる自然地形を利用し、その上に盛土をして築かれていることが分かりました。トレンチ3では南西部の粘土層から古墳に関連すると思われる石灰岩の礫や壺形土器の破片が出土しました。トレンチ4では古墳築造以前の遺構も見つかっています。

### 【トレンチ5・6】

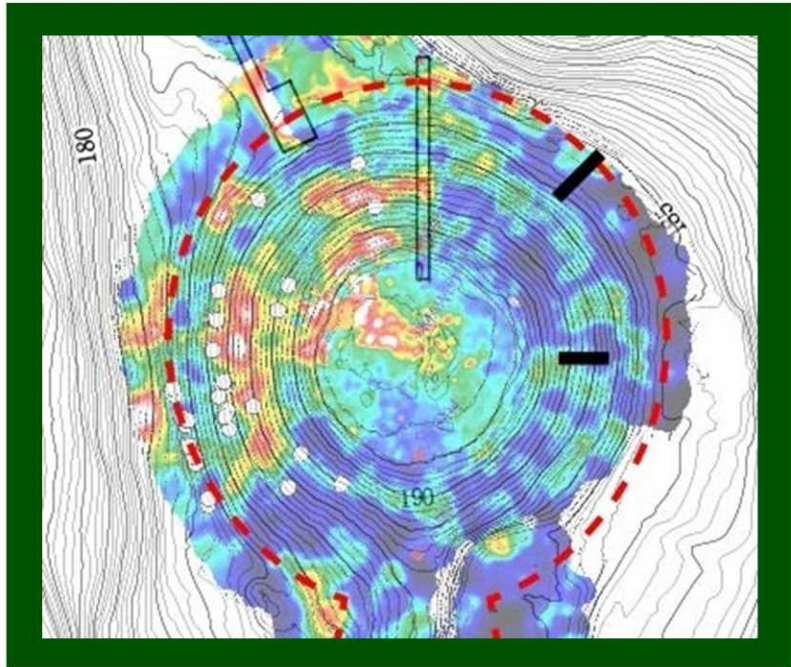
昨年度調査で見つかった石列の続きを後円部東半でも確認することが主な目的です。まだ2月末に発掘に着手したばかりの状況で、成果はこれからになります。

### 【トレンチ2】

西塚北側にある人工的な高まりの性格を解明するため、トレンチの一部で昨年度に続き調査を行っています。結果、トレンチ北端付近で埋葬主体を確認しました。昨年度にこのトレンチから出土した古墳時代の鉄斧もこの埋葬主体に伴うものと思われる。西塚と東塚の間にさらに古墳が存在していたことが明らかとなりました。

## その他の調査

西塚古墳墳丘全体の地中レーダ探査も実施しました。探査の結果では、トレンチ1・2で確認した古墳の裾部や墳丘斜面の石列がトレンチ以外の場所にも存在している可能性が高まりました。



西塚後円部の地中レーダ探査結果  
(白抜き○は地表に露出している石材)

2か年度にわたる調査ではこれまで知られていなかった荒木山西塚古墳の詳細や新たな古墳の存在などが次々と明らかになりました。今後も出土品の整理や発掘調査に基づきながら様々な検討を行い、古墳の内容や性格を明らかにしていきます。

## 荒木山西塚古墳発掘調査現地説明会

日時 令和6年3月2日(土) 13:30~

場所 荒木山西塚発掘調査現場(真庭市上水田)

主催 西の明日香村コンソーシアム

## 荒木山西塚古墳発掘調査プロジェクトとは

真庭市上水田にある前方後円墳「荒木山西塚古墳」を発掘調査する活動です。この発掘調査の最大の特徴は、地元で古墳を守る活動を続けている「北房文化遺産保存会」、同志社大学、真庭市や市教育委員会などが共同事業体「西の明日香村コンソーシアム」を結成し、民・学・官が連携しプロジェクトに取り組んでいることです。

発掘調査は令和4・5年度の2か年で、県内に呼びかけて集まった一般参加者の方なども加わり全員で協力しながら進めています。そして、このプロジェクトでは、荒木山西塚古墳の謎を解明するだけでなく、北房地域内外の様々な方々の交流を深めたり、地域に眠っている歴史・文化遺産の保存や活用の担い手づくりに繋がる仕組みを発掘を通じて築くことも目指しています。

## 荒木山西塚古墳について

古代北房は交通の要衝として重要な地位を占めており、国史跡「大谷・定古墳群」をはじめ貴重な古墳が数多く存在します。

そのうち、荒木山西塚古墳は上水田地区の丘陵に築かれた全長約63m、高さ約6mの前方後円墳で、真庭市の史跡に指定されています。後円部中央付近には竪穴式石室がありますが、すでに乱掘を受けています。

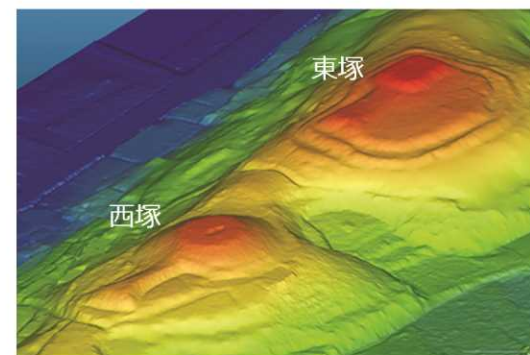
同一丘陵の東隣りには荒木山東塚古墳(前方後方墳)が築かれており、前方後円墳・前方後方墳が隣接して存在する珍しいケースです。

西塚古墳は、市内で最古級の古墳とみなされる東塚古墳に次いで築かれたと考えられ、発掘で出土した土器から4世紀後半(およそ1,650年前)頃に属します。

いずれにせよ市内の古墳では、川東車塚(落合・県指定)や荒木山東塚とともに真庭市を代表する古墳時代前期(3世紀半ば~4世紀)の古墳であり、県北西部でも三番目の大きさに当たる古墳です。



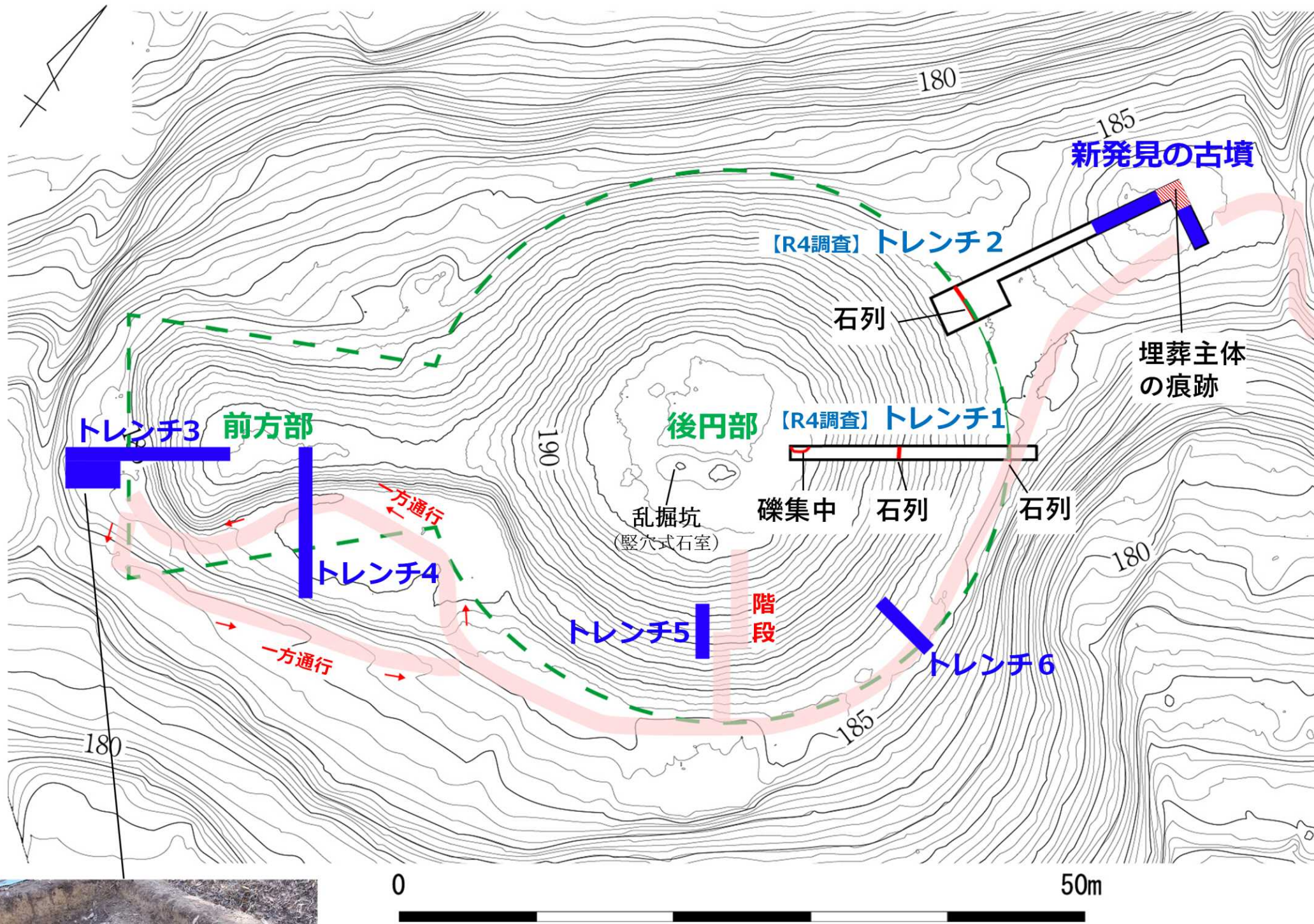
北房地域の古墳分布と西塚古墳の位置



荒木山西塚古墳(左)と東塚古墳(右)  
<南方向から>



# 荒木山西塚古墳 墳丘測量図・調査区（トレンチ）配置図



## 昨年度（R4年度） 発掘調査の成果



トレンチ1 礫集中



トレンチ2 墳裾の石列



トレンチ2 出土土師器



新発見の古墳から  
見つかった鉄製の斧

■が見学通路です、足元にお気を付けてご移動ください。

※トレンチ3・4への通路は一方通行になっています。ご協力ください。

※墳丘斜面や墳丘の西裾部分は大変滑りやすくなっており危険です。  
ビニルテープを張っている場所の向こうには安全のため立入らないでください。

※現在の調査成果に基づくもので、調査の進展により今後変わる場合があります。



トレンチ3 礫の出土状況